

平成 30 年度
事業報告書

社会福祉法人 南寿会

＜平成 30 年度事業報告＞

平成 30 年度の施設目標を「より優しく、より丁寧に、より強く」とし進めてまいりました。これについては各部署事業計画の一部としており、四半期毎の各部署長評価面談の中で報告を受けました。1 年間を通して概ね、順調に進めることができました。

教育という部分では、年間計画に基づき外部・内部研修を実施しました。外部研修については、研修に参加した職員が講師となり、勉強会を通じて広めることで多くの職員の知識となりました。

人財確保については、平成 30 年度においても厳しい状況にありました。正職員 6 名（デイサービス 3 名、特養 2 名、栄養士 1 名）、嘱託職員 4 名（デイサービス 2 名、特養 2 名）、パートタイム職員 7 名（デイサービス 1 名、特養 1 名、給食 2 名、訪問 2 名、事務 1 名）の退職者がありました。人員の補充を随時行いましたが、特養については充足には至っていません。また、疾病による長期休暇を必要とする職員が 3 名、特養にありました。これについては、他部署職員による応援で急場を凌ぐ対応となりました。

感染症については、ノロウイルス、インフルエンザに注視し、対策を実施しました。

ノロウイルス対策として、発症者の吐物・排泄物の処理方法についてのレクチャーにより、部署毎に徹底しました。

インフルエンザについては、デイサービス、ショートステイはワクチン接種の確認をする中で御利用して頂くことを徹底しました。

協力病院がワクチン確保の難しさから、特養入居者については若干接種時期が遅れたものの 11 月中には終了。職員の予防接種に苦労しましたが、近隣クリニック等の協力を得て、12 月中には全てが終了することができました。

11 月より全職員に実施している検温を含む出勤前健康チェック、12 月から実施しました段階的の面会制限。これらの対策により、二次感染による拡大を生むことはありませんでした。

平成 31 年 3 月 31 日
施設長 平野 渉

事業報告の附属明細書

社会福祉法第 59 条第 1 号に基づき報告する平成 30 年度事業報告の附属明細書については、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため作成していません。

平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人南寿会
理事長 奥脇 節子